

技術と人をつなぐ

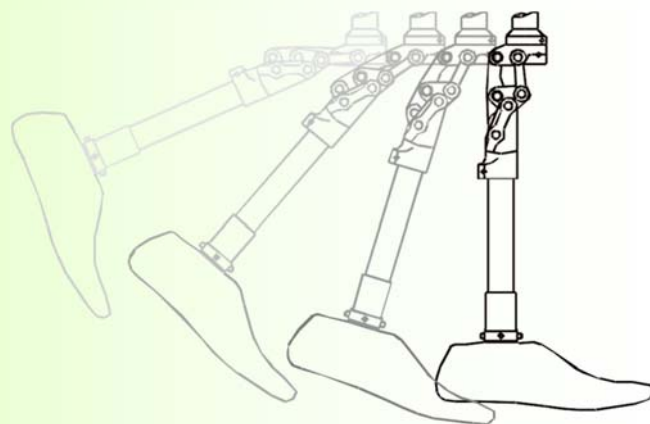
研究所から障害者のリハビリ施設までをひとつの組織内にもつ当センターは、基礎研究を応用につなげ障害の問題解決に貢献することを目指しています。当センターの多くの部署で日々共有されている課題を例に挙げながら、福祉機器・リハビリテーションの領域での活動を幅広く紹介します。



国立障害者リハビリテーションセンター
研究所

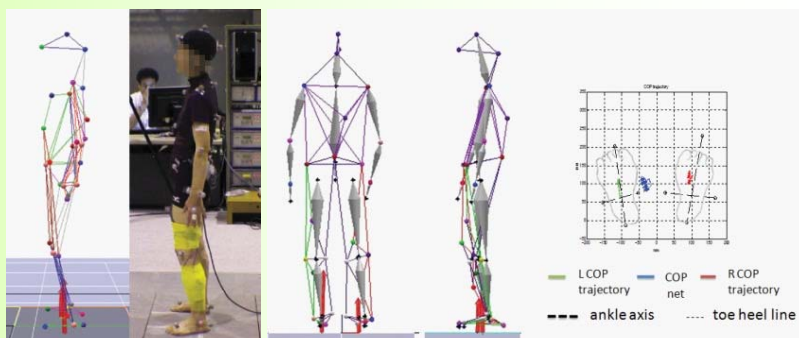
義手・義足利用者の日常生活の紹介

義手や義足を使いこなせるようになると
どんなことができるのか、熟練した義肢
ユーザーの日常生活のひとコマをご紹
介します。



「動きの科学」に基づいたリハビリ テーション方法の確立

中枢神経疾患罹患後の運
動機能回復を目的とし、実
験動物を対象とした基礎研
究とヒトを対象とした応用的
研究に取り組んでいます。



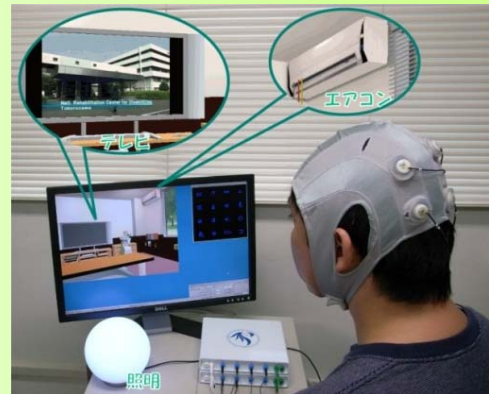
盲ろう者のための触手話（指文字） ロボットの開発

盲ろう者の約半分は情報獲得に触手
話が必要です。触れる指文字ロボッ
トで情報獲得の自立を支援します。



脳波による生活環境の制御

脳からの信号により機械を操作する技術であるブレイン・マシン・インターフェイスを用いた生活環境制御システムの展示を行います。



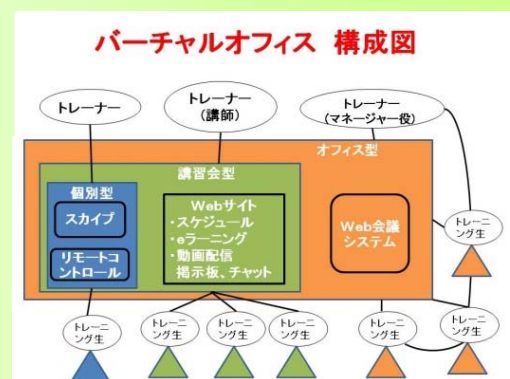
中途障害者向け6点入力式簡易メモ装置

点字や普通文字、パソコンでの文字入力に困難をともなっている中・高齢の中途視覚障害者の自立訓練、学習、就労を支援するための簡易メモ装置です。点字タイプライタ式で6点入力した文字が電子的に保存できます。点字の練習、就労中のメモ機として利用できます。



バーチャルオフィス

「バーチャルオフィス」は、障害者が在宅でITスキルやビジネスマナーを身につけるためのシステムです。



大切な情報を知らせてくれるロボット

高齢者の方へ、生活の大切な情報を知らせる対話型ロボットです。情報を分かりやすく伝えられるように、音声、話し方を工夫しています。



